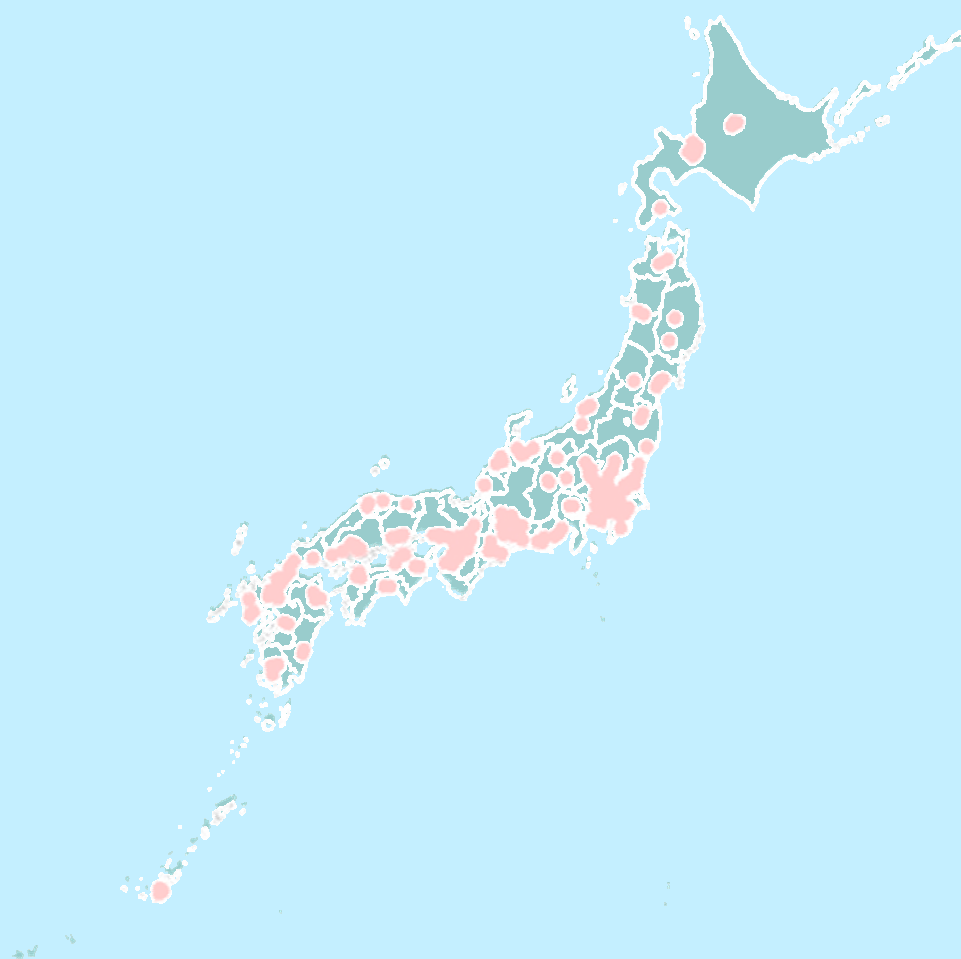


日本における造血幹細胞移植の実績

2013年度



日本で最初の造血幹細胞移植が行われたのは 1974 年ですが、1990 年代に入ってから劇的にその件数が増え、近年では年間 5000 件を超える造血幹細胞移植が実施されるようになり、その件数はとくに同種造血幹細胞移植において増加し続けています。

この治療法は、今日では、主に血液のがんである白血病やリンパ腫、あるいは再生不良性貧血などの根治療法としての役割を担っています。特に同種造血幹細胞移植では、2000 年以降、移植前の抗がん剤や放射線治療の強度を弱めた骨髄破壊的前治療が開発され、それまでは原則 50 歳までとされてきた年齢の上限が上昇し、最近の 5 年間では、同種造血幹細胞移植の約 4 割が 50 歳以上の患者に対して行われています。

造血幹細胞移植治療成績の向上には、世界的にも、移植患者の疾患・移植後経過情報の収集と解析が重要な役割を担ってきました。日本においても日本造血細胞移植学会が中心となり、日本小児血液・がん学会、日本骨髄バンク、日本さい帯血バンクネットワーク、および全国の 300 を超える施設（診療科）の努力により、20 年以上、移植患者の疾患・移植後経過情報の収集と解析が行われてきています。この役割を担うデータセンターとして、2013 年 10 月より日本造血細胞移植データセンターが稼働いたしました。

日本造血細胞移植データセンターの第一部門事業として、移植患者の疾患・移植後経過情報の収集と基本解析、そして解析結果の公表を担ってまいります。

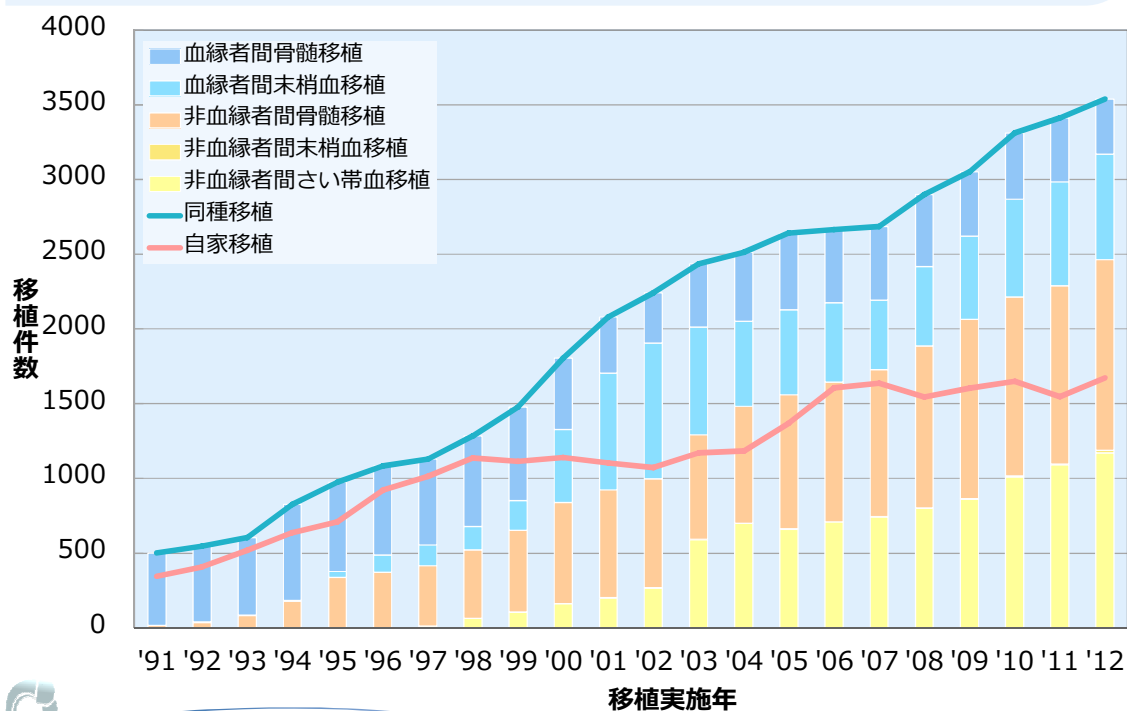
解析結果は、スライド資料としてご活用いただけるよう、日本造血細胞移植データセンターのホームページからダウンロードできるようにもしています。市民講座や患者会、講演や医療系の学生講義などでご利用いただければ幸いです。個々のスライドには、説明書きを加えました。

スライド資料の前半には移植件数の集計結果（疾患ごと、年齢ごと、など）を掲載しています。後半には生存曲線（移植種類ごと、疾患ごと、疾患移植時病期ごと、年齢ごと、など）を掲載しています。各群の患者数と移植後 1 年、5 年、10 年時点での粗生存率が生存曲線の横に表としてついています。

生存解析の最初には、移植後 100 日、あるいは 365 日生存率の年毎の変化を表示したグラフも掲載しました。

ここで示した生存成績は、背景因子などでの調整を行っていない、粗の生存成績です。そのため、生存成績どうしの比較はここでは行っていません。「この場合にはどちらを選択すべきか？」などの疑問に答える場合には、目的に応じた研究（前向きな臨床試験も含み）として検討する必要があります。日本造血細胞移植データセンターはこのような研究活動も第二部門事業として支援しています。

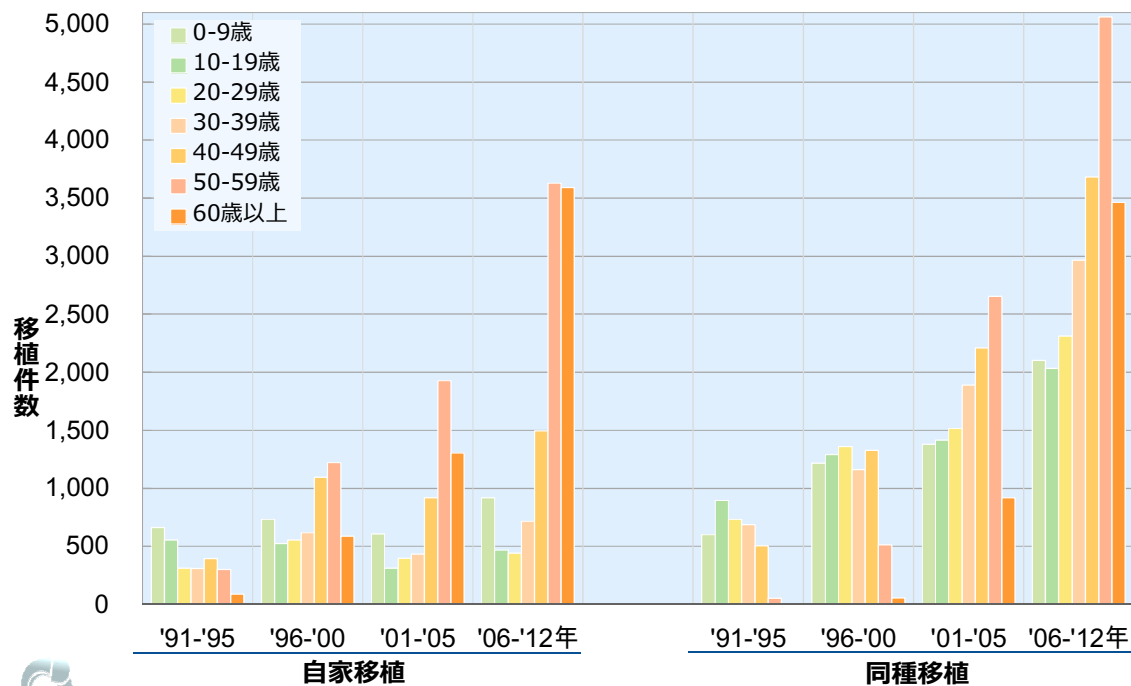
造血幹細胞移植件数の年次推移 (移植種類別)



Slide1

わが国において非血縁者間骨髄移植の登録が開始された1993年以降、また第一例目のさい帯血移植が行われた1997年以降、非血縁者間の移植の普及により移植を受ける患者の総数は増加しており、特にさい帯血移植の増加は著しい。

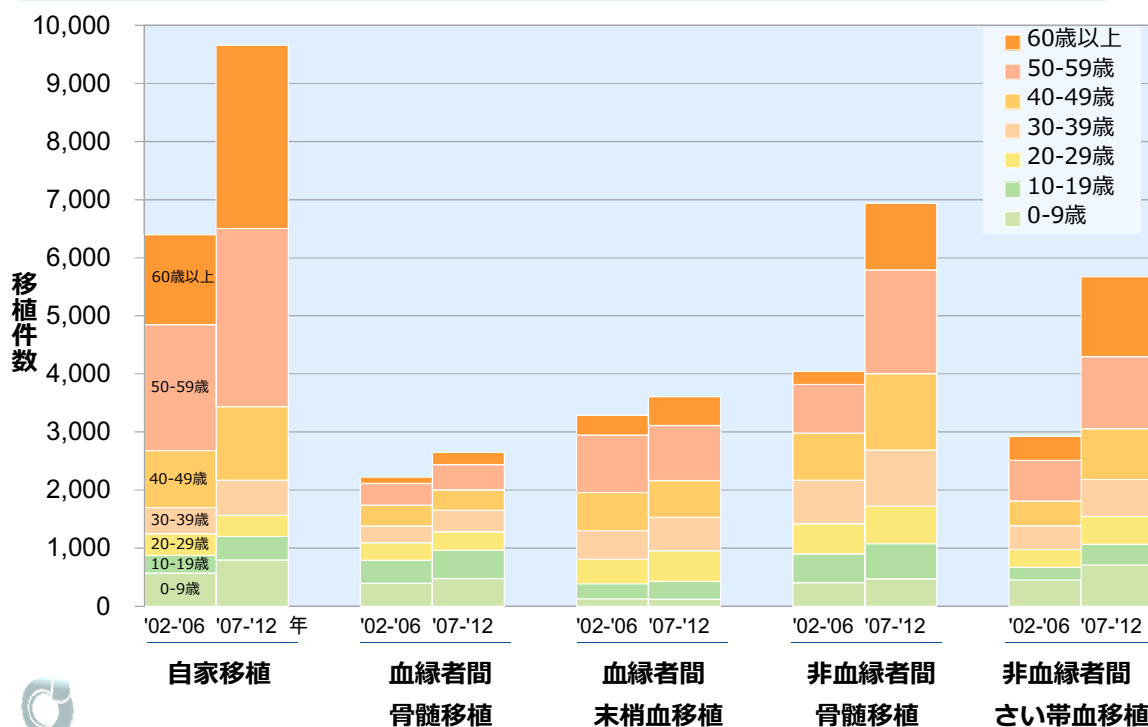
造血幹細胞移植件数の年次推移 (患者年齢階級別)



Slide2

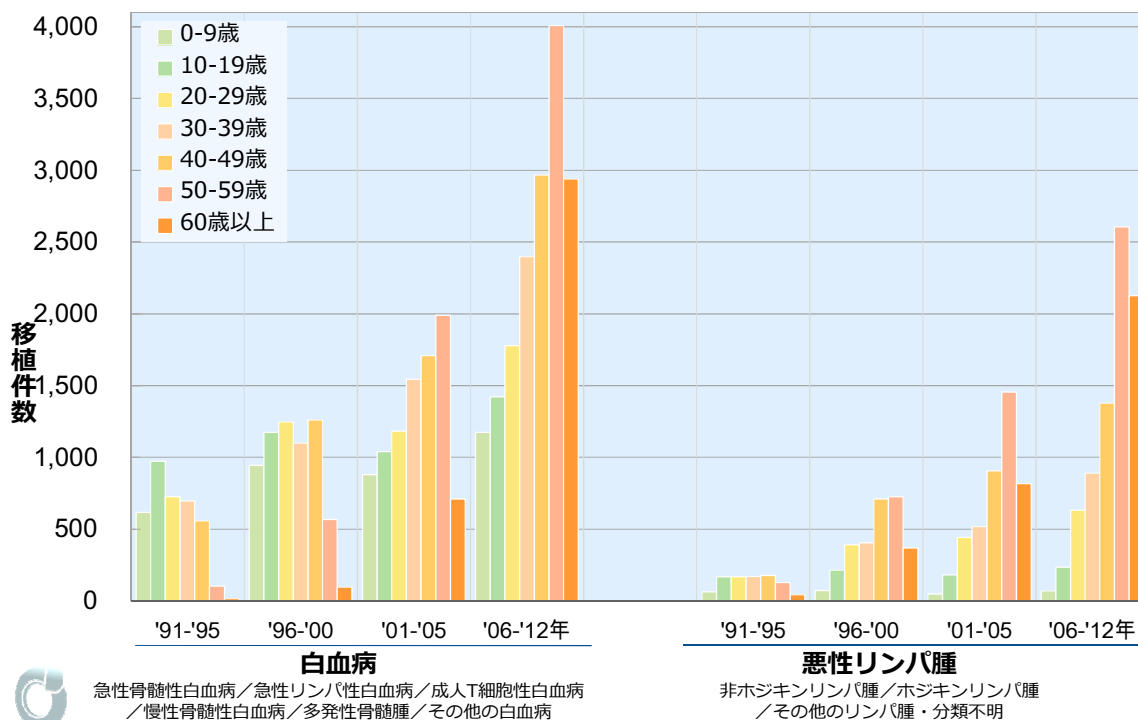
移植前処置の強度を緩めたミニ移植の普及により、移植の適応年齢が拡大し高齢者における移植件数が増加している。

造血幹細胞移植件数の推移 (患者年齢階級別)



移植前処置の強度を緩めたミニ移植の普及により、移植の適応年齢が拡大した。非血縁者間移植(骨髓移植、さい帯血移植) はすべての年齢層において、殊に高齢者において増加傾向にある。

造血幹細胞移植件数の年次推移 (白血病・悪性リンパ腫)



10年前と比較して、白血病に対する移植件数はおよそ50%増加し、悪性リンパ腫に対する移植件数は35 %増加した。とくに高齢者を中心に移植件数が著しく増加している。

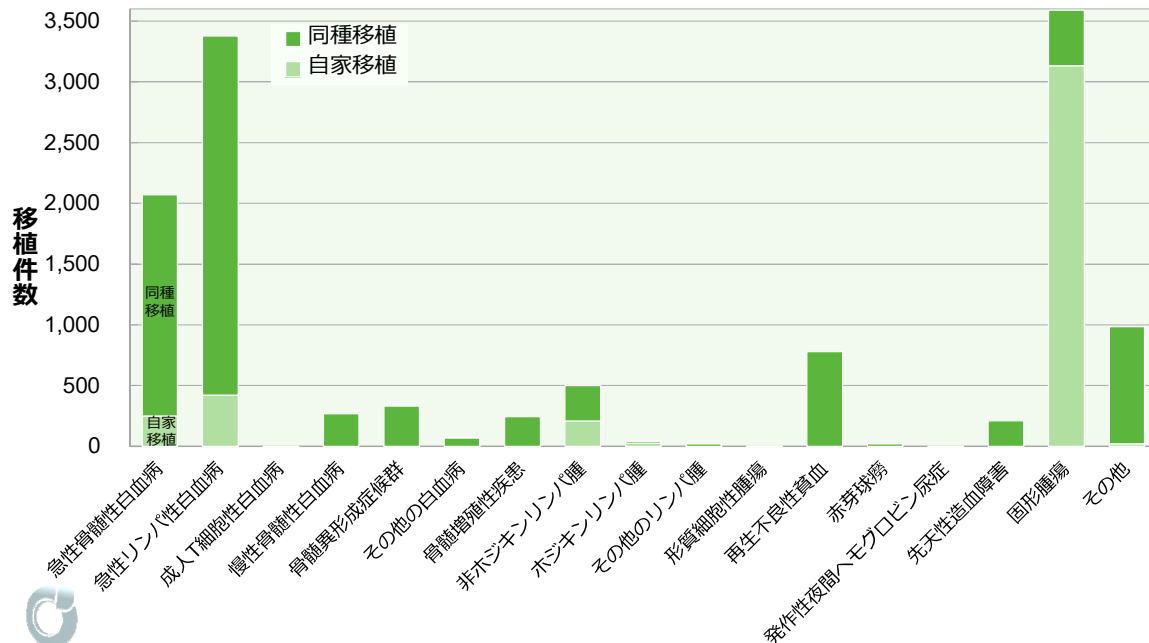
(50歳以上において白血病で123%増加、悪性リンパ腫で62%増加)

2006年～2012年では、50歳以上の割合は白血病でおよそ40%、悪性リンパ腫で60%である。

造血幹細胞移植件数

(疾患別)

1991年～2012年に施行された移植の累積件数

移植時年齢
0～15歳

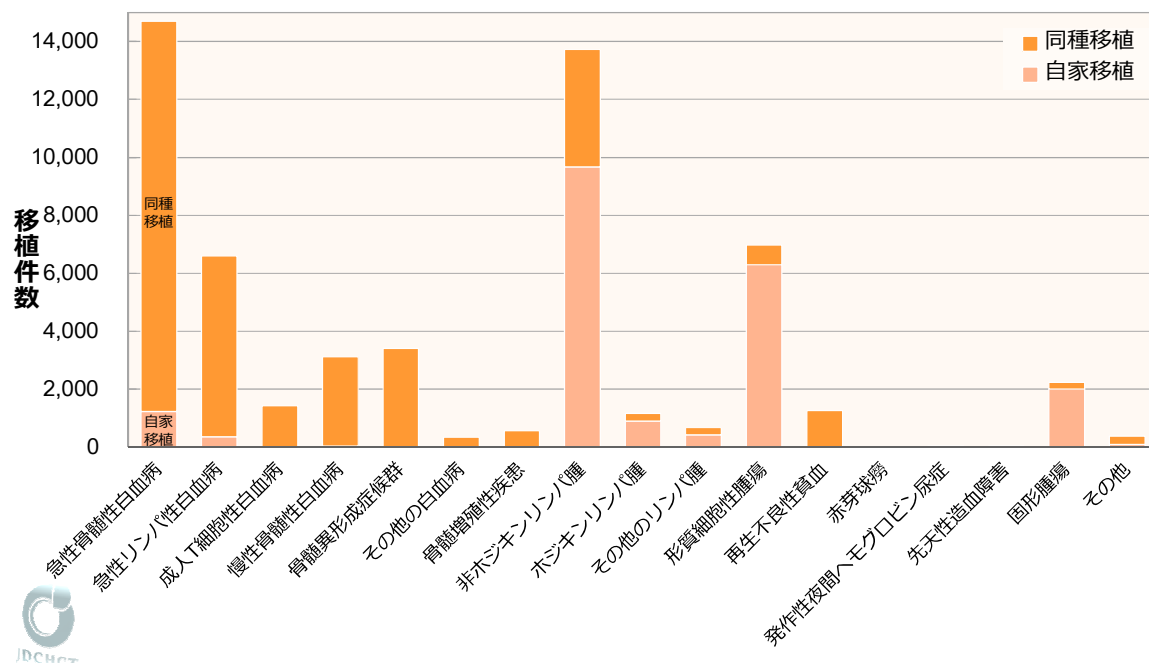
小児における同種移植は、急性白血病(急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病)で最も多く、移植全体のおよそ57%を占める。ついで、同種移植件数の多い小児の再生不良性貧血は希少疾患であるが、重症/最重症例では同種骨髄移植が第一選択とされるため小児の同種移植件数の9%程度を占める。

小児の固形腫瘍においては、大量化学療法による造血機能不全を救済するために自家移植が行われるため、自家移植件数が88%を占める。

造血幹細胞移植件数

(疾患別)

1991年～2012年に施行された移植の累積件数

移植時年齢
16歳以上

16歳以上における同種移植は、急性白血病(急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病)で最も多く、移植全体のおよそ56%を占める。ついで、骨髄異形成症候群、慢性骨髄性白血病で多く施行されている。

2001年にわが国において慢性骨髄性白血病の分子標的治療薬としてイマチニブが承認され、ついでニロチニブ、ダサチニブが承認されて以降、慢性骨髄性白血病に対する移植は減少傾向にある。

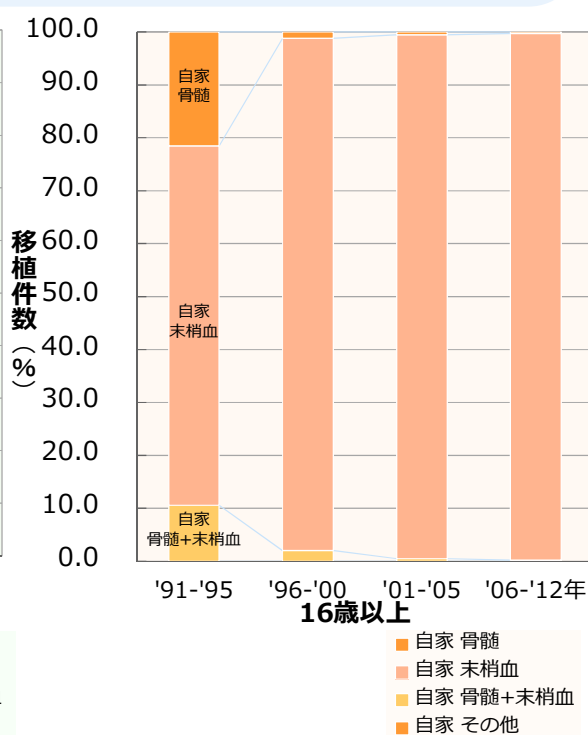
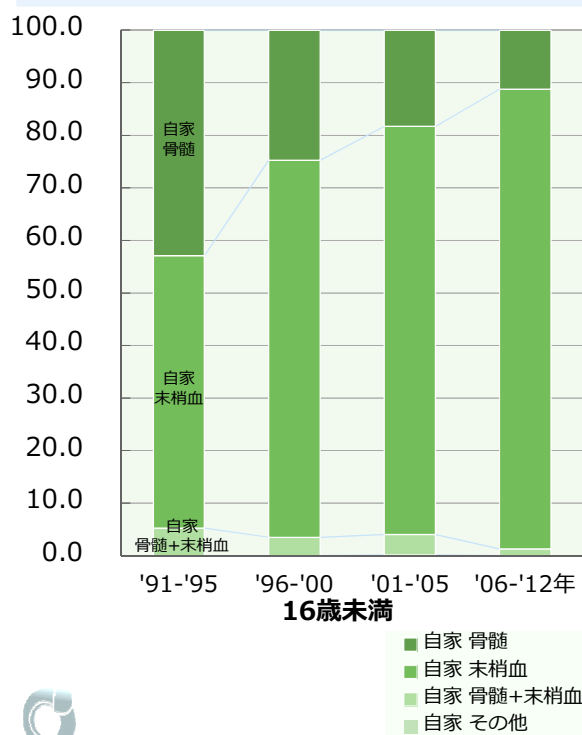
悪性リンパ腫では患者数は増加しているが、リツキシマブ、化学療法や放射線療法が有効なことが多いため、同種移植を第一治療として選択されることは多くない。

多発性骨髄腫は高齢者に多く、悪性リンパ腫と同じく患者数は増加傾向にある。自家移植を併用した大量化学療法が65歳以下での多発性骨髄腫の標準治療として確立しており、初回移植のおよそ90%が自家移植である。

移植幹細胞種類の推移

自家移植

造血幹細胞移植

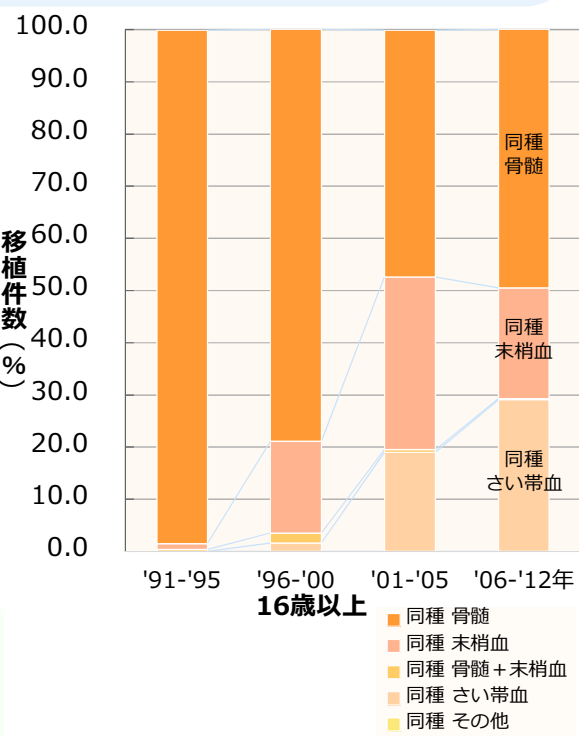
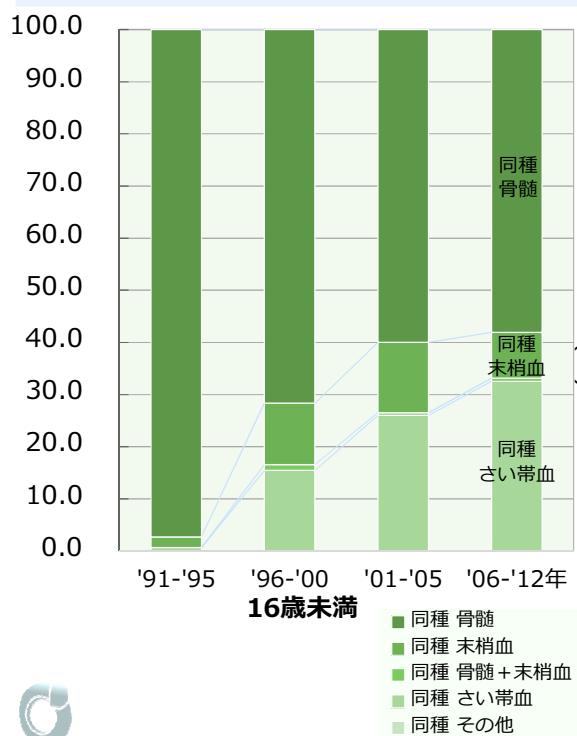
自家移植
同種移植

近年、16歳未満では自家移植のおよそ87%、成人では99%が末梢血による移植である。骨髄移植と比較して細胞採取において患者さんへの負担が少ないことや、顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)を使用して末梢血から移植細胞を採取する方法が2000年に保険適応となったことなどの理由により、自家末梢血移植件数が増加し、自家骨髄移植は減少傾向にある。

移植幹細胞種類の推移

同種移植

造血幹細胞移植

自家移植
同種移植

さい帯血移植の普及に伴い、同種骨髄移植の割合は減少傾向にある。しかし、骨髄移植、さい帯血移植とともにその実施件数は近年なお増加している。

近年では、同種移植のおよそ30%がさい帯血による移植である。

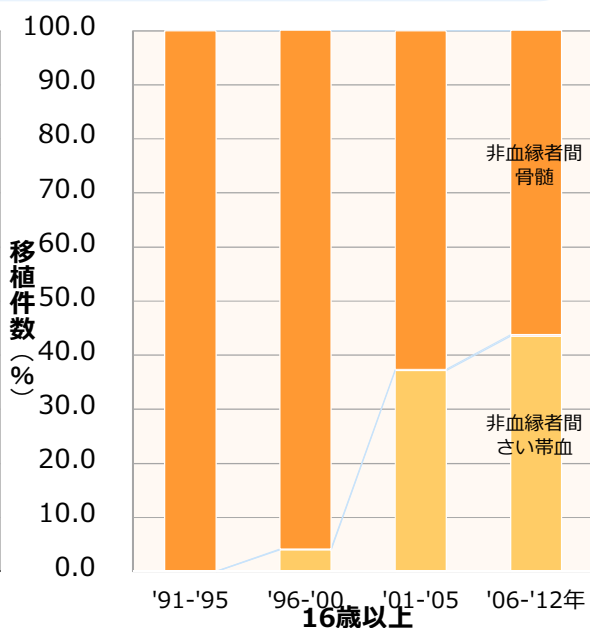
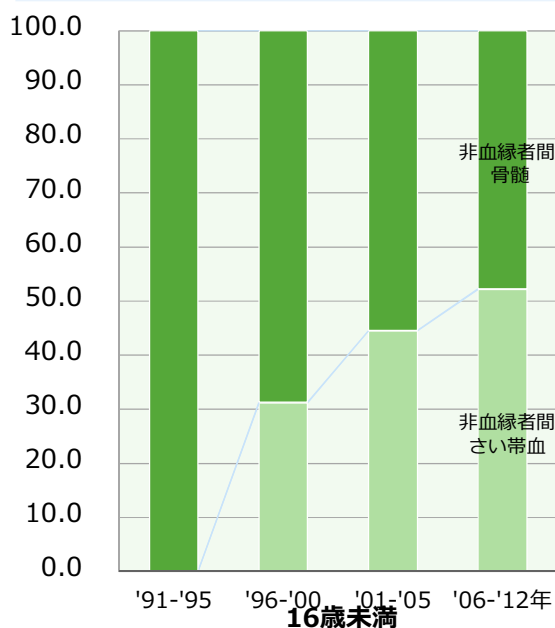
移植幹細胞種類の推移 (非血縁者間移植)

同種移植

造血幹細胞移植

自家移植
同種移植

血縁者間移植
非血縁者間移植

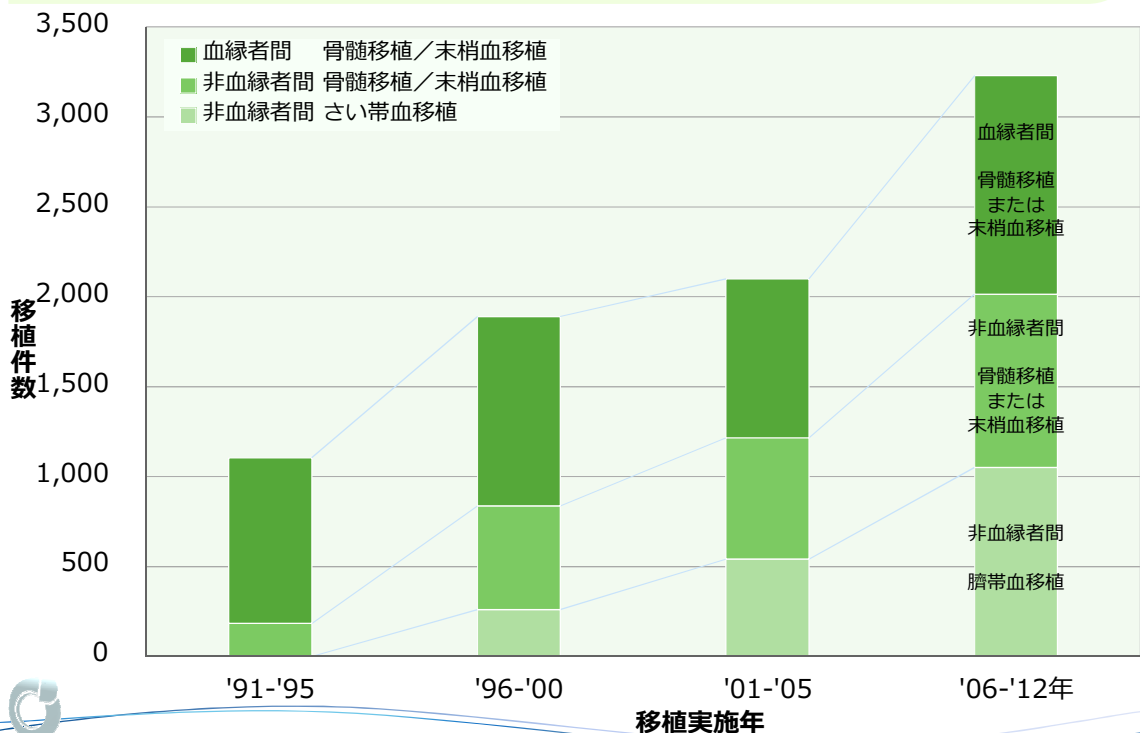


非血縁者間の移植においても、さい帯血移植の増加に伴い、近年では骨髄移植とさい帯血移植の割合は同等である。

造血幹細胞移植件数の推移 (ドナー種類別)

同種移植

移植時年齢
0～15歳



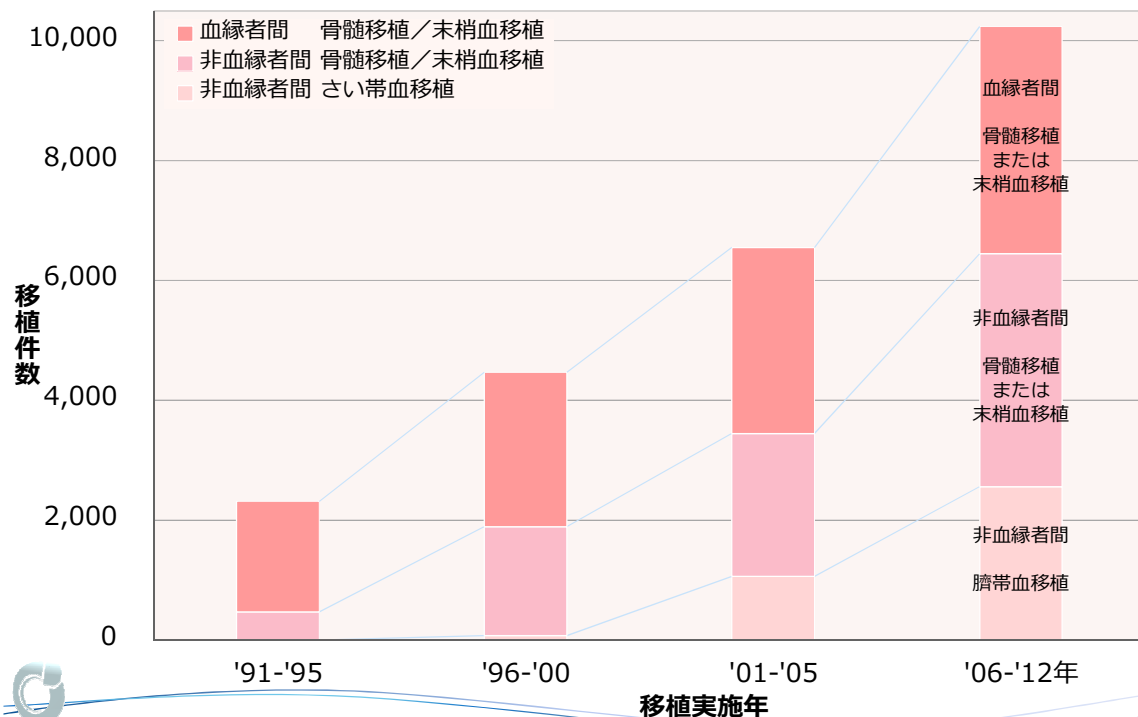
血縁者間移植に比較して非血縁者間移植の伸び率は高く、近年は血縁者間と非血縁者間の移植の割合は、38%、62%である。

Slide 10

造血幹細胞移植件数の推移 (ドナー種類別)

同種移植

移植時年齢
16～50歳



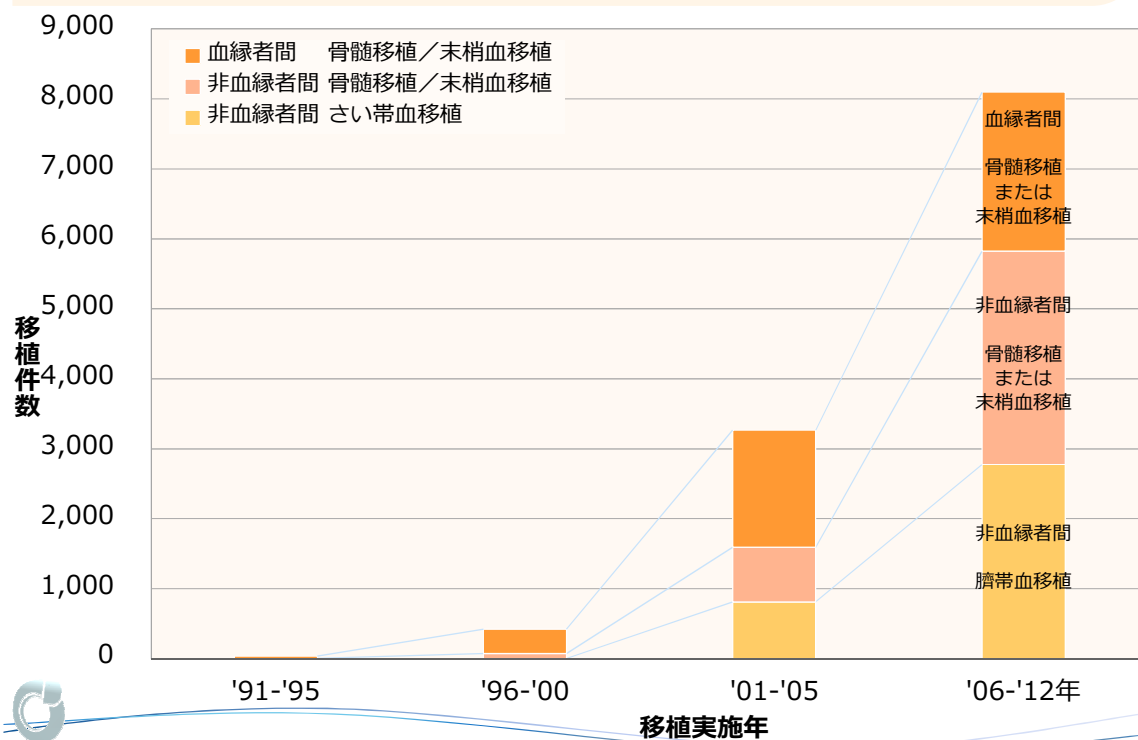
Slide 11

血縁者間での骨髄移植あるいは末梢血移植はほぼ横ばいであり、非血縁者間での骨髄移植、さい帯血移植の件数は増加傾向である。

造血幹細胞移植件数の推移 (ドナー種類別)

同種移植

移植時年齢
51歳以上

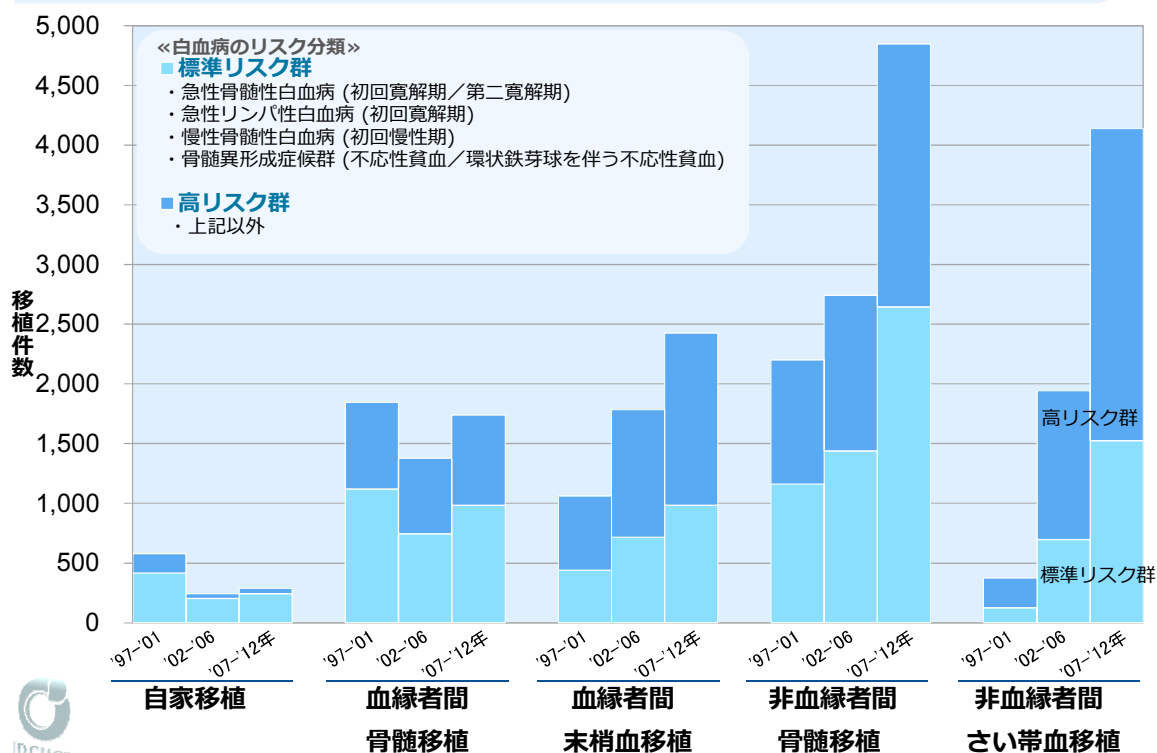


Slide 12

移植前処置の強度を緩めたミニ移植の普及により、高齢者での同種移植件数は著しく増加している。

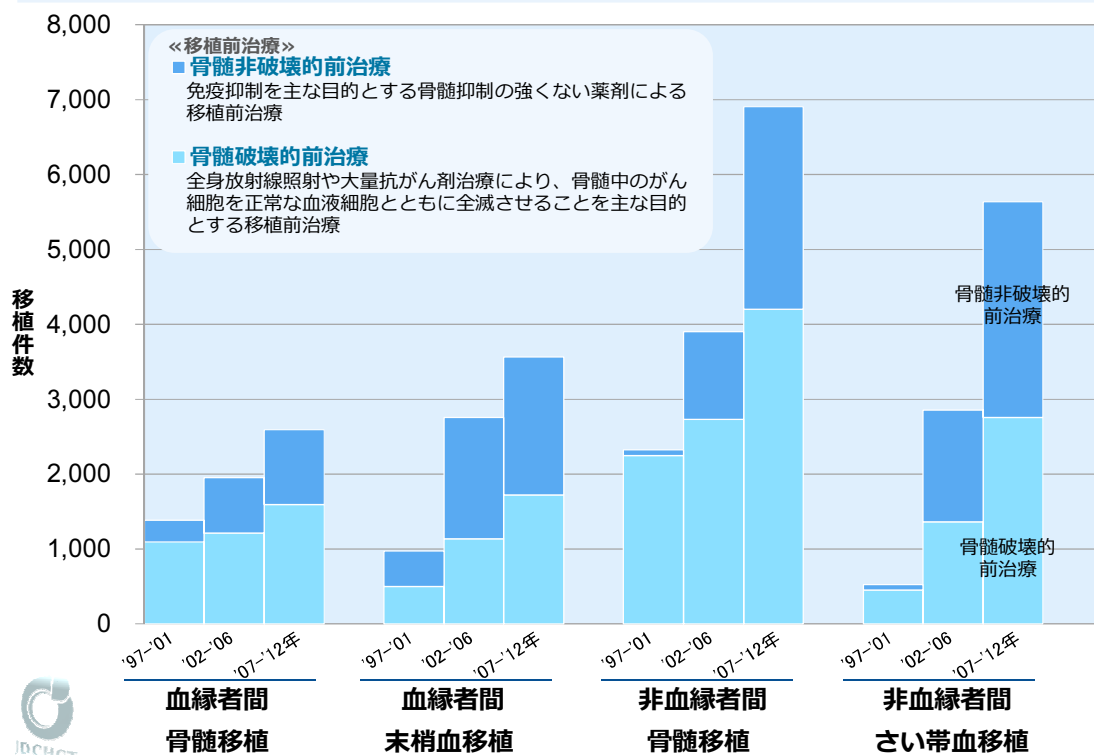
造血幹細胞移植件数の推移（白血病リスク分類別）

急性骨髄性白血病/急性リンパ性白血病/慢性骨髄性白血病/骨髄異形成症候群



治療困難とされる白血病の高リスク群においても、非血縁者間移植(骨髄移植、さい帯血移植)が行われるようになってきた。

造血幹細胞移植件数の推移（移植前治療強度別）

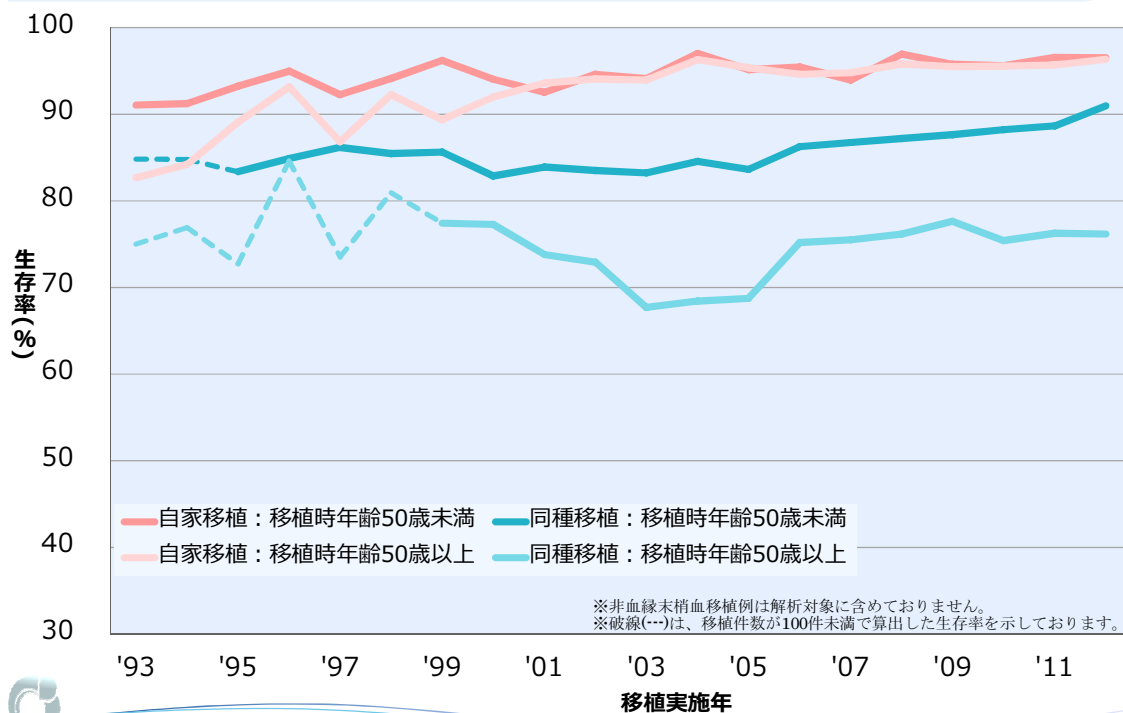


前処置による毒性の低い骨髄非破壊的移植の普及により、高齢者など移植適応が増大したことが全体の移植数の増加に大きく寄与している。

移植後100日生存率の年次推移

自家移植／同種移植

初回移植例



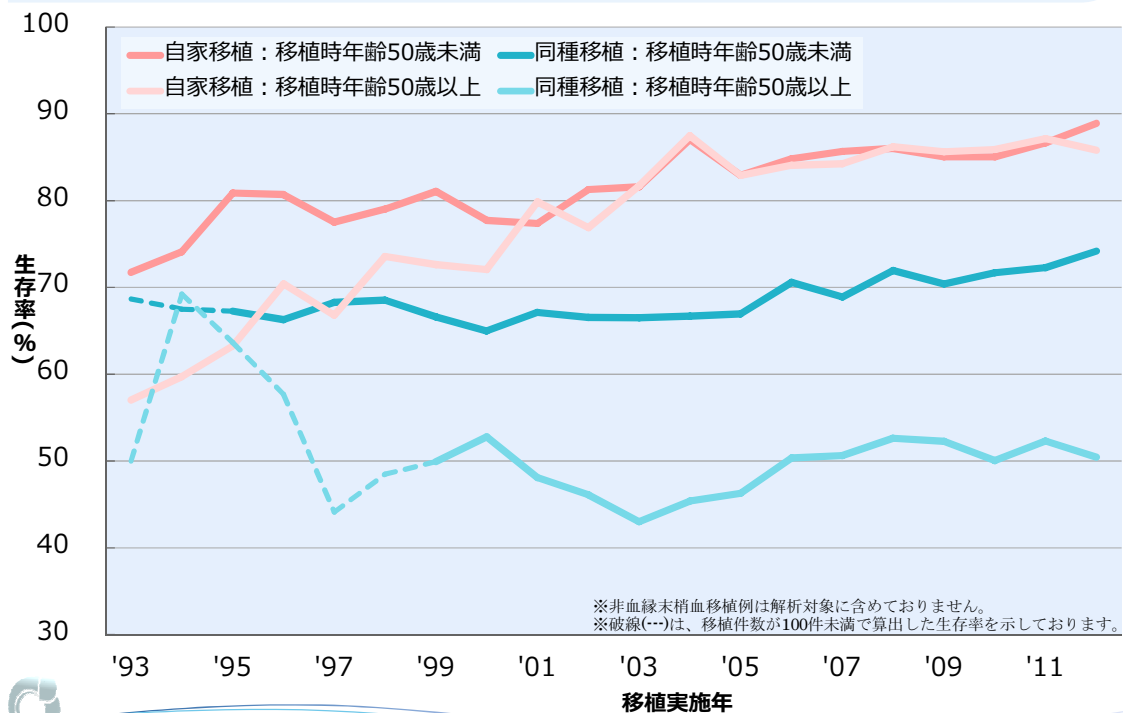
生存率の推移

移植後100日での生存率は、自家移植、同種移植例ともにここ10年でわずかに向上している傾向がみられる。自家移植後の100日生存率は50歳未満、50歳以上で同等の成績が得られている。

移植後365日生存率の年次推移

自家移植／同種移植

初回移植例



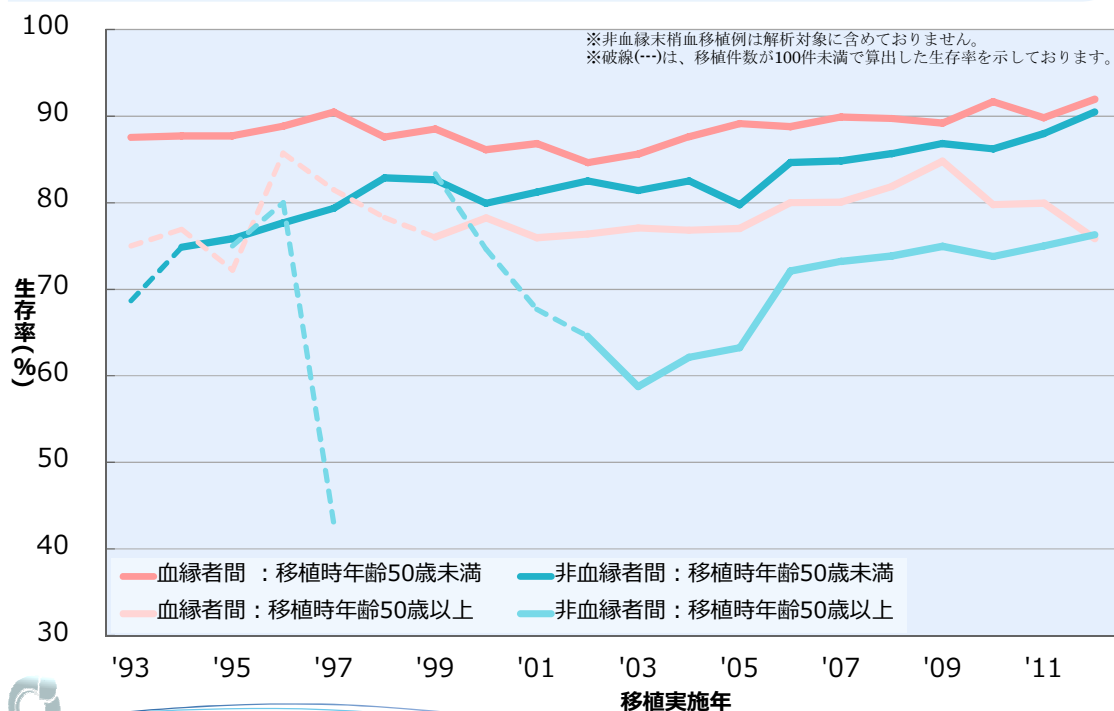
移植後365日(1年)での生存率は、自家移植、50歳未満での同種移植例にて、ここ10年で向上している傾向がみられる。

自家移植後365日生存率は50歳未満、50歳以上で同等の成績が得られている。

移植後100日生存率の年次推移

同種移植

初回移植例



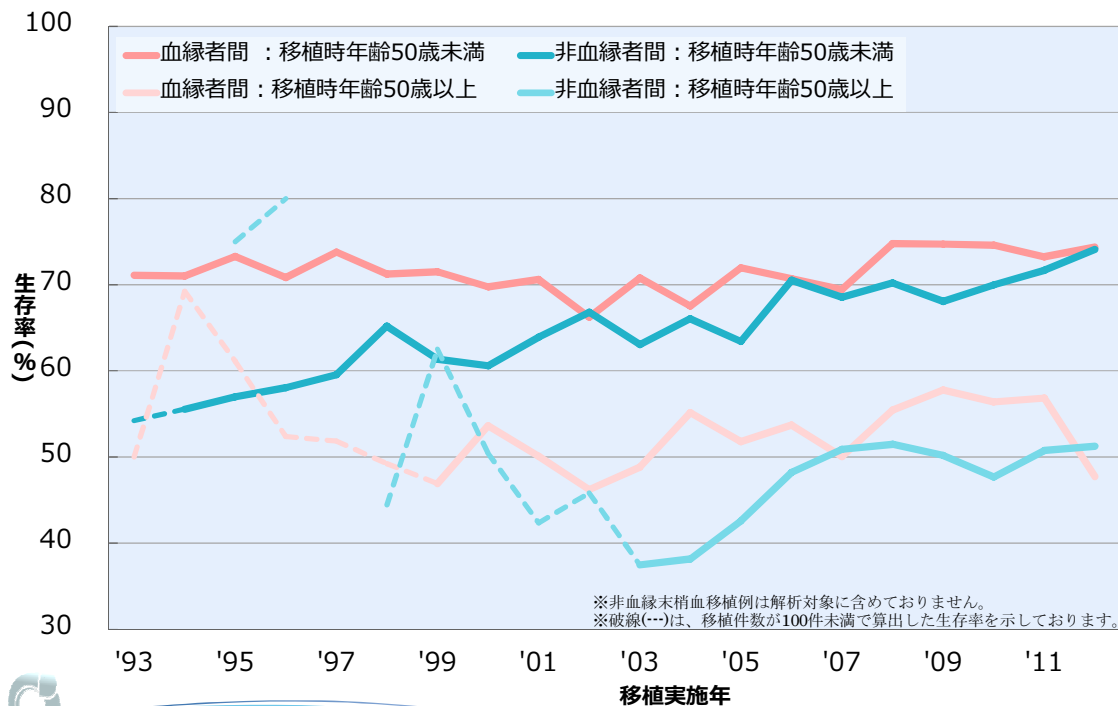
Slide3

50歳未満での血縁者間、非血縁者間の同種移植後100日での生存率は、ともにここ10年で向上している傾向がみられる。

移植後365日生存率の年次推移

同種移植

初回移植例

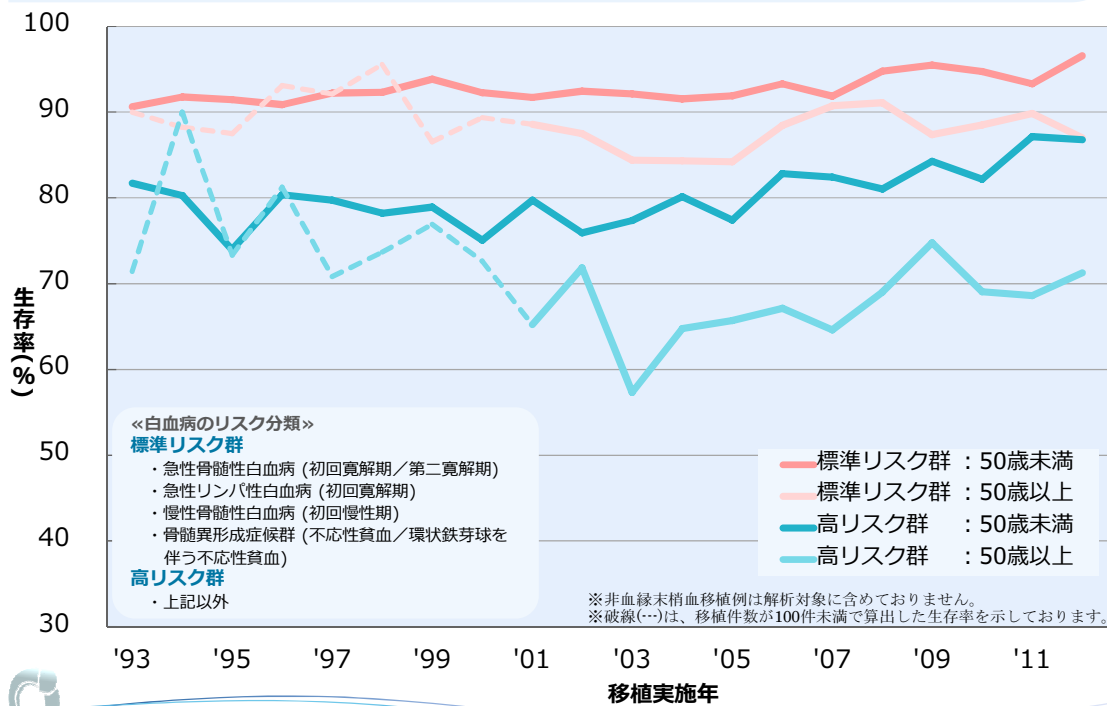


Slide4

50歳未満での血縁者間、非血縁者間の同種移植後365日での生存率は、ともにここ10年で向上している傾向がみられる。

移植後100日生存率の年次推移（白血病リスク分類別）

急性骨髄性白血病/急性リンパ性白血病/慢性骨髄性白血病/骨髄異形成症候群の初回移植例

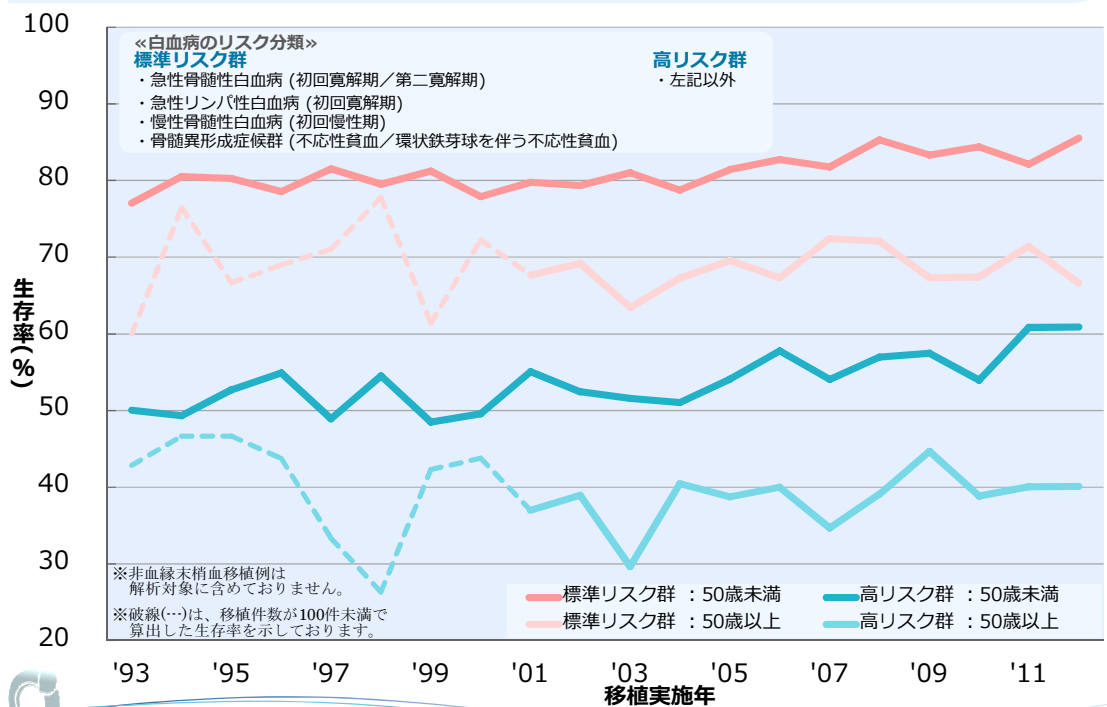


白血病の高リスク群に対する移植後100日での生存率は、50歳未満で向上している。

また、50歳以上においても10年前と比較すると、移植件数も伸びているが移植成績の向上もみられる。

移植後365日生存率の年次推移（白血病リスク分類別）

急性骨髄性白血病/急性リンパ性白血病/慢性骨髄性白血病/骨髄異形成症候群の初回移植例



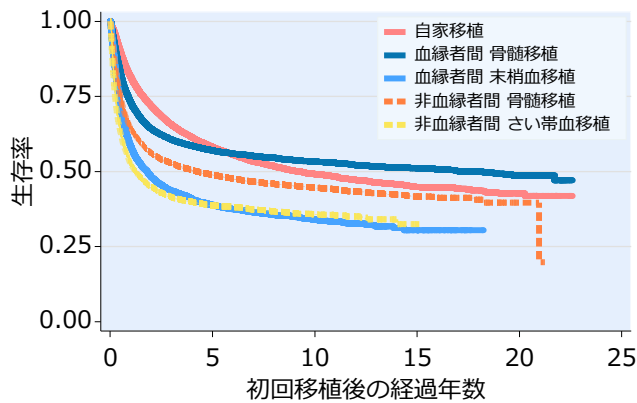
白血病に対する移植後100日での生存率は、過去10年をみると、ごくわずかに向上傾向あるいはほぼ横ばいである。

また、各リスク群において若年者と高齢者を比較すると、若年者の移植成績が良好である。

移植後の成績

(移植種類別)

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



縦軸：生存率
(1.00=100%の人が生存している)
横軸：移植後の経過年数

		移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
			生存率	生存率	生存率
血縁者	自家移植	22,103件	81.3%	58.1%	49.2%
	骨髄移植	9,976件	72.8%	57.0%	53.3%
	末梢血移植	6,590件	58.1%	38.9%	34.0%
非血縁者	骨髄移植	13,269件	64.5%	48.9%	44.6%
	さい帯血移植	6,768件	52.3%	38.7%	35.8%



Slide21

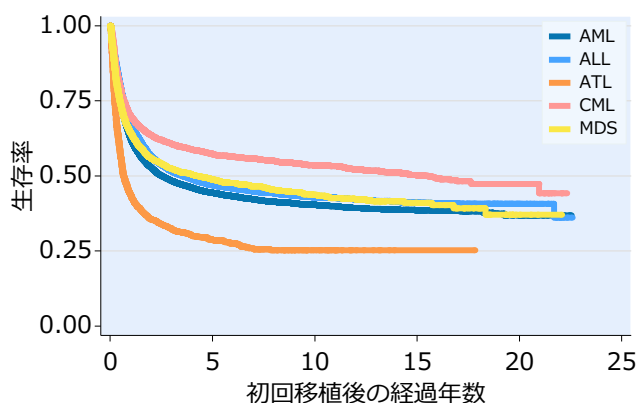
自家移植の生存率は、移植後1年で81.3%、移植後5年では58.1%であり、移植後10年後の生存率は50%をやや下回る程度である。

血縁者からの骨髄移植の移植後5年の生存率は57.0%、移植後10年は53.3%、非血縁者からの骨髄移植の移植後5年生存率は48.9%、移植後10年生存率は44.6%であり、同種移植のいずれにおいても移植後5年以降の生存率の低下は緩やかである。

移植後の成績

- 白血病 -

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



※非血縁末梢血移植例は解析対象に含めておりません。

	移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
		生存率	生存率	生存率
急性骨髄性白血病 (AML)	14,170件	62.2%	44.4%	40.3%
急性リンパ性白血病 (ALL)	8,555件	67.4%	46.9%	42.9%
成人T細胞性白血病 (ATL)	1,354件	43.5%	28.7%	25.2%
慢性骨髄性白血病 (CML)	3,142件	69.6%	57.3%	53.5%
骨髄異形成症候群 (MDS)	3,301件	64.1%	48.8%	43.6%



Slide22

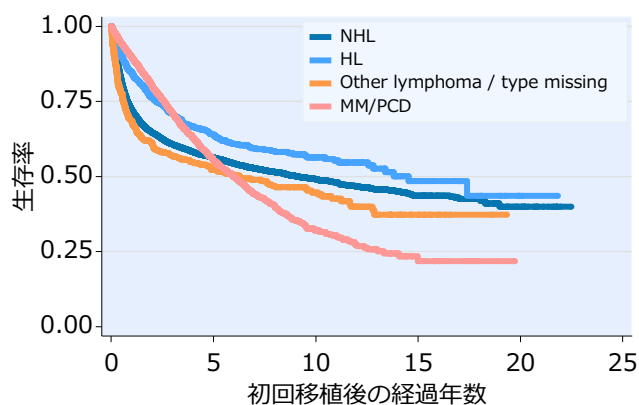
急性白血病では、いずれも移植後5年の生存率は45%前後であり、移植後10年生存率はおよそ40%である。また、慢性骨髄性白血病においては、治療薬の普及により移植件数は減少したが、移植後5年、移植後10年の生存率ともに50%を上回っている。

成人T細胞性白血病では、移植後1年生存率が43.5%、移植後10年生存率が25.2%であり他の白血病の生存率を下回る。

移植後の成績

- 悪性リンパ腫/多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍 -

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



※非血縁末梢血移植例は解析対象に含めておりません。



	移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
		生存率	生存率	生存率
非ホジキンリンパ腫 (NHL)	12,544件	72.0%	56.2%	49.1%
ホジキンリンパ腫 (HL)	988件	84.4%	63.9%	56.4%
上記以外のリンパ腫 (Other lymphoma / type missing)	626件	68.2%	52.2%	44.7%
多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍 (MM / PCD)	5,133件	89.6%	55.3%	32.0%

非ホジキンリンパ腫、ホジキンリンパ腫の移植後5年の生存率はいずれも60%前後、移植後10年生存率は50%前後であり、1年生存率はホジキンリンパ腫のほうがやや高い。

多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍における移植のおよそ90%は自家移植である。自家または同種の移植全体での移植後1年生存率は89.6%と良好であるが、移植後10年生存率は32%である。

年齢別移植成績

自家移植

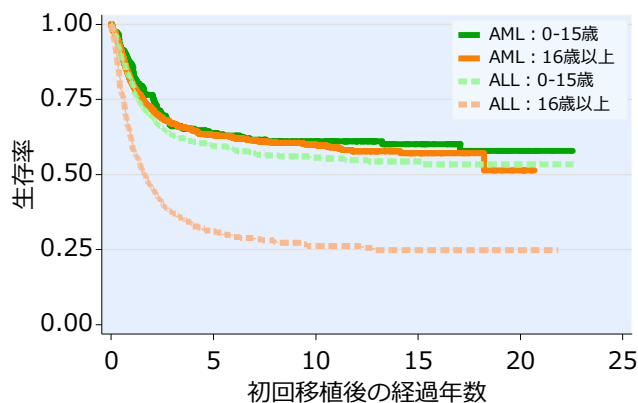
- 白血病 (急性骨髄性白血病/急性リンパ性白血病) -

移植時年齢

0~15歳

16歳以上

1991年~2012年に移植された登録例の生存率 (初回移植)



		移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
			生存率	生存率	生存率
急性骨髄性白血病 (AML)	移植時年齢 0~15歳	234件	86.8%	63.9%	61.1%
	移植時年齢 16歳~	1,178件	80.5%	63.0%	56.0%
急性リンパ性白血病 (ALL)	移植時年齢 0~15歳	395件	81.3%	59.6%	55.7%
	移植時年齢 16歳~	328件	61.0%	31.0%	26.3%



Slide24

急性骨髄性白血病においては、0~15歳と16歳以上で生存率はほぼ同率である。

急性リンパ性白血病においては、16歳以上での自家移植後5年、10年生存率が31.0%、26.3%であり、小児に比較して長期生存率は低い。

年齢別移植成績

自家移植

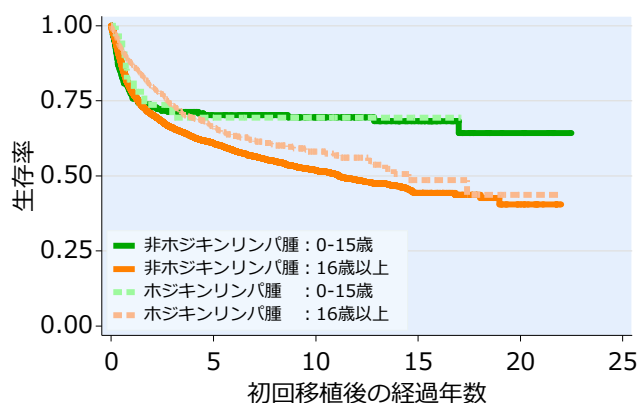
- 悪性リンパ腫 (非ホジキンリンパ腫/ホジキンリンパ腫) -

移植時年齢

0~15歳

16歳以上

1991年~2012年に移植された登録例の生存率 (初回移植)



		移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
			生存率	生存率	生存率
非ホジキンリンパ腫	移植時年齢 0~15歳	204件	77.3%	70.2%	69.5%
	移植時年齢 16歳~	9,227件	78.0%	60.8%	51.9%
ホジキンリンパ腫	移植時年齢 0~15歳	28件	82.1%	69.4%	69.4%
	移植時年齢 16歳~	862件	87.3%	66.4%	58.1%



Slide25

悪性リンパ腫に対する初回移植のうち、移植件数の割合は、非ホジキンリンパ腫が90%、ホジキンリンパ腫における移植が10%未満である。これは、悪性リンパ腫の発症頻度 とほぼ同率であり、移植種類の大半は自家移植である。

非ホジキンリンパ腫、ホジキンリンパ腫における0~15歳での自家移植後5年の生存率はいずれも70%前後であり、以降の生存率は低下しない。

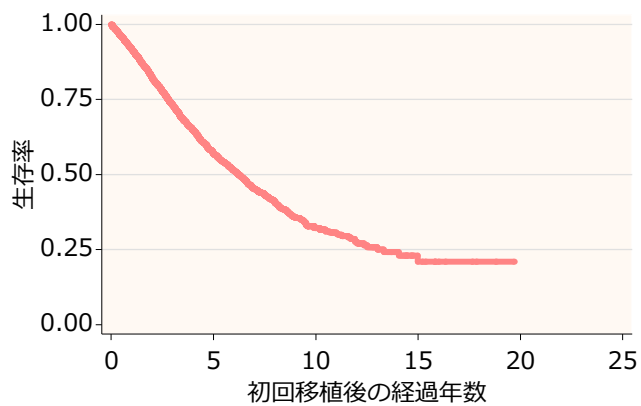
16歳上での自家移植後の生存率は、ホジキンリンパ腫において移植後1年生存率は87%と良好であり、移植後10年で60%をやや下回る程度である。

移植後の成績 - 多発性骨髄腫 -

自家移植

移植時年齢
16歳以上

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



		移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
	移植件数	生存率	生存率	生存率
自家移植	4,861件	91.6%	56.8%	32.2%

生存曲線



Slide26

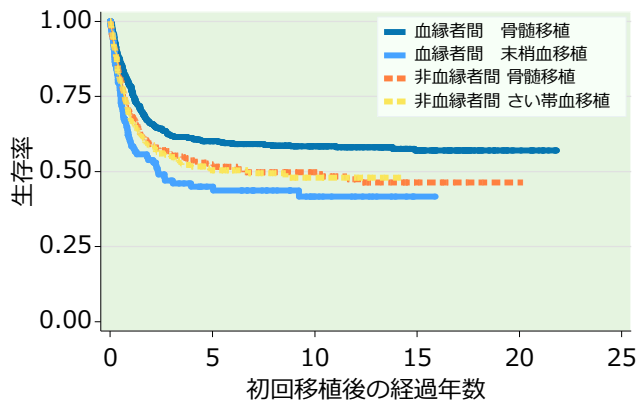
多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍における移植件数のおよそ95%を自家移植が占める。
移植後1年生存率は90%を上回り良好であるが、移植後10年生存率は32%程度まで低下する。

移植後の成績 同種移植

- 急性骨髄性白血病 -

移植時年齢
0～15歳

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
移植件数	生存率	生存率	生存率
635件	78.1%	60.1%	58.4%
119件	59.4%	44.9%	41.6%
391件	69.8%	52.3%	49.8%
321件	67.5%	50.4%	48.0%



Slide27

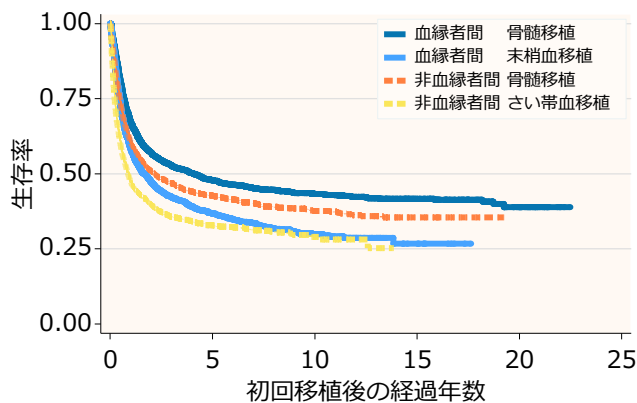
急性骨髄性白血病における移植の約90%は同種移植であり、15歳以下では血縁者間骨髄移植が多く行われている。1991年から2012年の間に初回同種移植が行われた登録例1,466件の移植後5年生存率は、血縁者間骨髄移植では60.1%であり、非血縁者間移植では50%前後である。

移植後の成績 同種移植

- 急性骨髄性白血病 -

移植時年齢
16歳以上

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
	生存率	生存率	生存率
2,373件	66.8%	47.9%	43.3%
2,266件	58.1%	36.8%	29.9%
4,185件	60.7%	42.7%	37.6%
2,463件	47.2%	32.9%	29.0%



Slide28

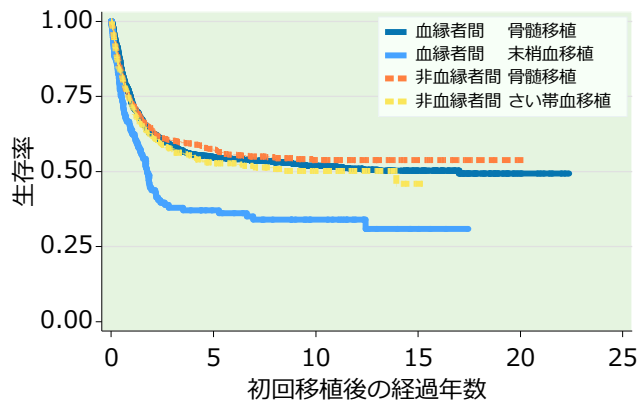
16歳以上の急性骨髄性白血病における同種移植では、非血縁者間骨髄移植が多く行われている。1991年から2012年の間に初回同種移植が行われた登録例11,287件の移植後5年生存率は、血縁、非血縁者間移植ともに30～50%である。

移植後の成績 同種移植

- 急性リンパ性白血病 -

移植時年齢
0～15歳

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



		移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
			生存率	生存率	生存率
血縁	骨髄移植	991件	72.6%	54.7%	51.9%
	末梢血移植	154件	63.2%	37.1%	34.0%
非血縁	骨髄移植	790件	73.2%	57.2%	53.8%
	さい帯血移植	534件	72.0%	52.8%	50.2%



Slide29

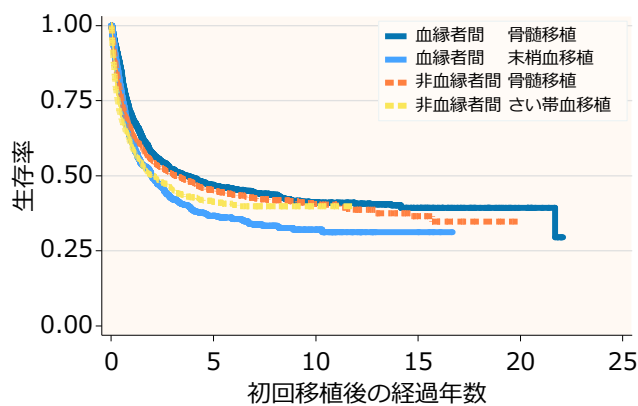
急性リンパ性白血病における移植の約90%は、同種移植であり、15歳以下では血縁者間骨髄移植が多く行われている。1991年から2012年の間に初回同種移植が行われた登録例2,469件の移植後5年生存率は、血縁者間骨髄移植、非血縁者間移植では55%前後であり、血縁者間末梢血移植では37.1%である。移植後5年以降の生存率の低下は、緩やかになり、移植後10年の生存率は、血縁、非血縁者間骨髄移植ともに50%以上である。

移植後の成績 同種移植

- 急性リンパ性白血病 -

移植時年齢
16歳以上

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



		移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
			生存率	生存率	生存率
血縁	骨髄移植	1,423件	69.5%	46.7%	41.2%
	末梢血移植	931件	61.4%	36.7%	32.1%
非血縁	骨髄移植	2,154件	64.9%	45.2%	40.7%
	さい帯血移植	851件	59.7%	41.4%	39.8%



Slide30

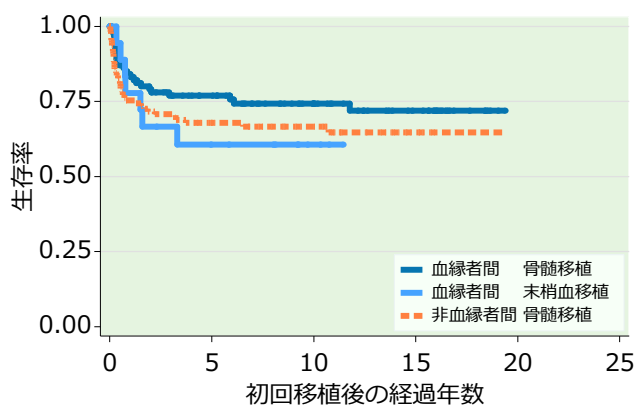
16歳以上の急性リンパ性白血病における同種移植では、非血縁者間骨髄移植が多く行われている。1991年から2012年の間に初回同種移植が行われた登録例5,359件の移植後5年生存率は、血縁、非血縁移植ともに40%前後である。

移植後の成績 同種移植

- 慢性骨髄性白血病 -

移植時年齢
0～15歳

1991年～2012年に移植された登録例の生存率 (初回移植)



※慢性骨髄性白血病に対する0～15歳における非血縁者間さい帯血移植 (初回移植)は、件数が少ないため解析対象に含めておりません。

		移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
			生存率	生存率	生存率
血縁	骨髄移植	101件	84.1%	76.9%	74.3%
	末梢血移植	18件	77.8%	60.6%	60.6%
非血縁	骨髄移植	111件	75.4%	67.9%	66.6%



Slide31

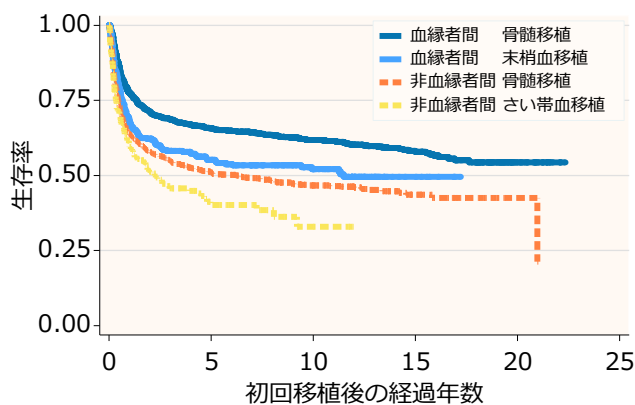
15歳以下の慢性骨髄性白血病は症例数が少ないが、その中で血縁または非血縁者間骨髄移植が多く行われ、非血縁者間さい帯血移植の登録例はない。1991年から2012年の間に初回同種移植が行われた登録例230件の移植後5年生存率は、血縁者間骨髄移植76.9%、血縁者間末梢血移植60.6%、非血縁者間骨髄移植67.9%である。移植後5年以降の生存率の低下は、緩やかになっており、移植後10年での生存率は、血縁、非血縁者間移植ともに60%以上である。

移植後の成績 同種移植

- 慢性骨髄性白血病 -

移植時年齢
16歳以上

1991年～2012年に移植された登録例の生存率 (初回移植)



		移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
			生存率	生存率	生存率
血縁	骨髄移植	1,068件	77.5%	65.7%	61.8%
	末梢血移植	392件	67.4%	55.2%	52.2%
非血縁	骨髄移植	1,207件	63.7%	51.0%	46.7%
	さい帯血移植	199件	59.4%	40.1%	32.9%



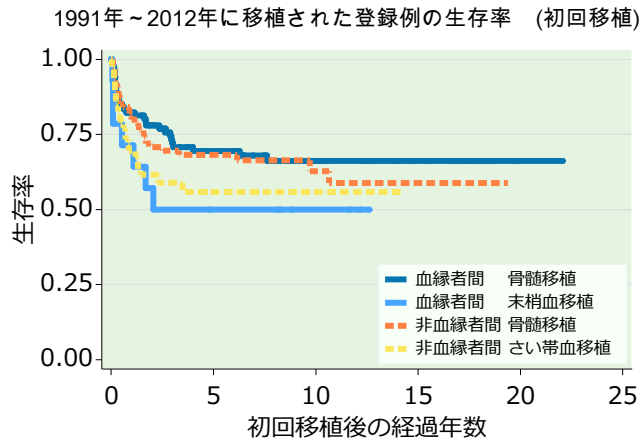
Slide32

慢性骨髄性白血病の移植のほとんどが同種移植であり、16歳以上では非血縁者間骨髄移植が多く行われている。1991年から2012年の間に初回同種移植が行われた登録例2,866件の移植後5年生存率は、血縁者間骨髄移植65.7%、血縁者間末梢血移植55.2%、非血縁者間骨髄移植51.0%、非血縁者間さい帯血移植40.1%である。移植後10年では、非血縁者間移植において生存率が50%を下回っている。

移植後の成績 同種移植

- 骨髄異形成症候群 -

移植時年齢
0～15歳



	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
移植件数	生存率	生存率	生存率
103件	82.3%	69.5%	66.2%
14件	71.4%	50.0%	50.0%
103件	79.9%	68.3%	62.7%
59件	69.6%	55.8%	55.8%



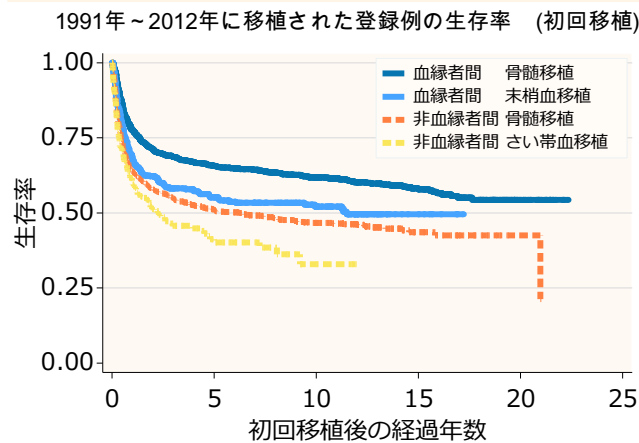
Slide33

骨髄異形成症候群の移植のほとんどが同種移植であり、15歳以下では血縁または非血縁者間骨髄移植が多く行われている。1991年から2012年の間に初回同種移植が行われた登録例279件の移植後5年生存率は、血縁者間骨髄移植69.5%、血縁者間末梢血移植50.0%、非血縁者間骨髄移植68.3%、非血縁者間さい帯血移植55.8%である。移植後5年以降の生存率の低下は緩やかになり、血縁者間、非血縁者間移植ともに生存率が50%以上である。

移植後の成績 同種移植

- 骨髄異形成症候群 -

移植時年齢
16歳以上



移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
	生存率	生存率	生存率
625件	74.0%	57.1%	54.1%
579件	64.9%	44.4%	37.8%
1,235件	62.9%	49.3%	41.8%
562件	47.7%	35.3%	30.6%



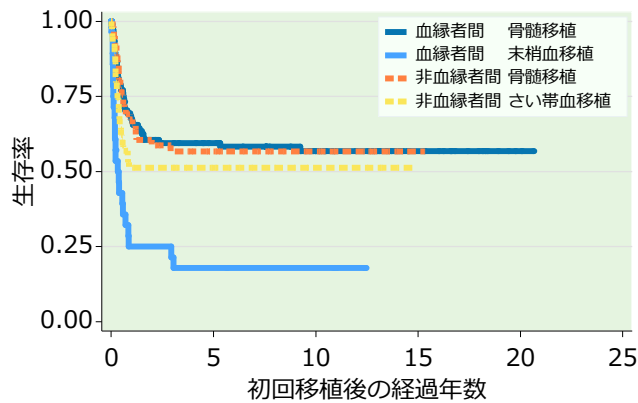
Slide34

16歳以上の骨髄異形成症候群における同種移植では、非血縁者間骨髄移植が多く行われている。1991年から2012年の間に初回同種移植が行われた登録例3,001件の移植後5年生存率は、血縁者間骨髄移植では57.1%であり、血縁者間末梢血移植、非血縁者間移植では50%を下回っている。

移植後の成績 同種移植 - 非ホジキンリンパ腫 -

移植時年齢
0～15歳

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



		移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
			生存率	生存率	生存率
血縁	骨髄移植	106件	67.5%	59.5%	56.8%
	末梢血移植	28件	25.0%	17.9%	17.9%
非血縁	骨髄移植	62件	67.4%	56.7%	56.7%
	さい帯血移植	59件	51.2%	51.2%	51.2%



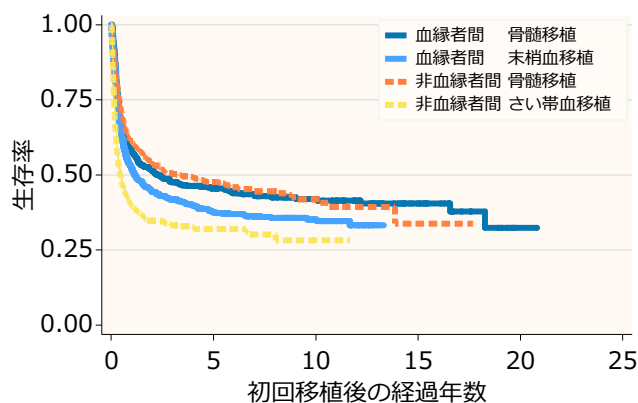
Slide35

15歳以下の非ホジキンリンパ腫では、約半数が同種移植であり、血縁者間骨髄移植が多く行われている。1991年から2012年の間に初回同種移植が行われた登録例255件の移植後5年生存率は、血縁者間骨髄移植、非血縁者間移植では50%以上であり、移植後5年以降の生存率は、ほぼ横ばいである。

移植後の成績 同種移植 - 非ホジキンリンパ腫 -

移植時年齢
16歳以上

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



		移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
			生存率	生存率	生存率
血縁	骨髄移植	510件	57.8%	45.5%	42.0%
	末梢血移植	887件	51.9%	37.6%	35.2%
非血縁	骨髄移植	852件	61.3%	47.7%	41.8%
	さい帯血移植	603件	39.7%	32.0%	28.2%



Slide36

16歳以上の非ホジキンリンパ腫における同種移植では、血縁者間末梢血移植が多く行われている。1991年から2012年の間に初回同種移植が行われた登録例2,852件の移植後5年生存率は、血縁、非血縁者間移植ともに30～50%である。

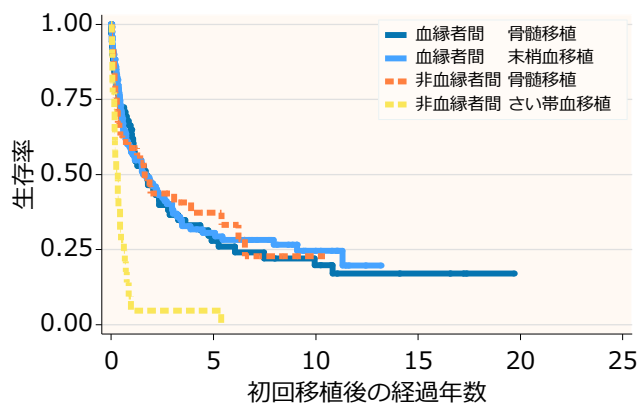
移植後の成績

同種移植

移植時年齢
16歳以上

－ 多発性骨髄腫を含む形質細胞性腫瘍 －

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



		移植件数	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
			生存率	生存率	生存率
血縁	骨髄移植	69件	63.5%	27.9%	19.8%
	末梢血移植	121件	57.5%	30.6%	24.6%
非血縁	骨髄移植	49件	58.8%	37.4%	22.8%
	さい帯血移植	31件	4.7%	4.7%	—



Slide37

多発性骨髄腫は高齢者で多く発症し、16歳以上での移植件数のおよそ95%を自家移植が占め、同種移植では血縁者間末梢血移植が多く行われている。移植後5年生存率は、血縁、非血縁者間移植ともに40%を下回っており、その後の生存率の低下も著しい。

生存曲線

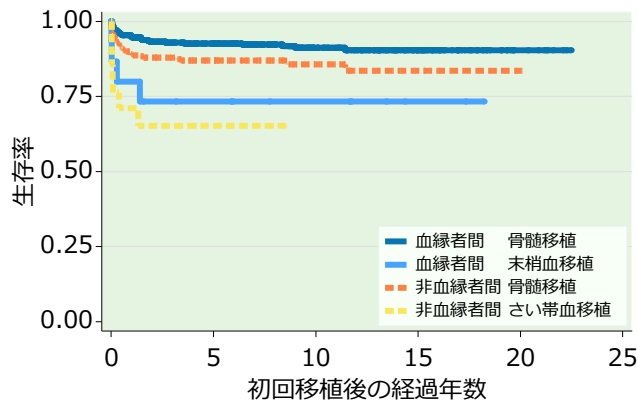
移植後の成績

同種移植

- 再生不良性貧血 -

移植時年齢
0～15歳

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
移植件数	生存率	生存率	生存率
410件	94.9%	92.7%	91.2%
15件	80.0%	73.3%	73.3%
271件	89.1%	86.9%	85.8%
21件	71.1%	65.2%	—



Slide38

再生不良性貧血では同種移植が行われ、15歳以下では血縁者間骨髄移植が多く行われている。移植後5年生存率は、血縁者間骨髄移植92.7%、血縁者間末梢血移植73.3%、非血縁者間骨髄移植86.9%、非血縁者間さい帯血移植65.2%である。

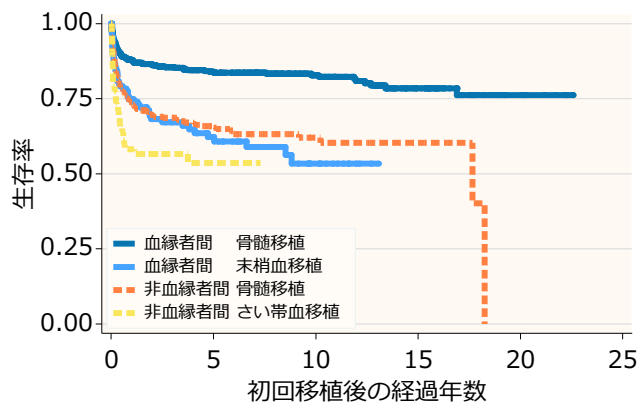
移植後の成績

同種移植

- 再生不良性貧血 -

移植時年齢
16歳以上

1991年～2012年に移植された登録例の生存率（初回移植）



	移植後 1年	移植後 5年	移植後 10年
移植件数	生存率	生存率	生存率
556件	87.9%	83.7%	82.8%
121件	74.9%	62.2%	53.4%
409件	73.3%	65.4%	62.0%
76件	58.2%	53.7%	—



Slide39

16歳以上の再生不良性貧血において同種移植の約半数が、血縁者間骨髄移植である。移植後5年生存率は、血縁、非血縁者間移植ともに50%以上であり、血縁者間骨髄移植では83.7%である。



〒461-0047 愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1番20号 名古屋大学内
ホームページ <http://www.jdchct.or.jp/>